

120の公約は公表されたか

町長 新聞記事などで公表、後援会の会員や役場の内部で情報共有

奈須 憲一郎 議員



谷町政4年間の振り返り

質問

①120の公約は公開されたのか。

②「幸せ日本一」は達成されたのか。

③スクラップ・アンド・ビルドは進んだのか。

④平成29年第3回下川町議会臨時会での森林バイオマス熱電併給事業に関する私の反対討論をどう受け止めているのか。

⑤平成29年度下川町各種会計歳入歳出決算認定に対する特別決議をどう受け止めているのか。

⑥一の橋の菓子製造施設整備事業に伴う無秩序な提案について、提案責任をどう考えているのか。

町長

①新聞記事等で公表、後援会の会員や役場の内部で情報共有、進捗状況は後援会のオンブズマンチームによる検証を行ってきた。

②実感としては8割程度か

と感じている。

③第8次行政改革大綱の推進、第6期下川町総合計画の策定、予算編成方針等において「行政評価のポイント等」「事業費補助金・負担金の統一基準（見直しのガイドライン）」「団体補助金交付の統一基準」などを指示し、見直しを進めてきた。

④平成29年11月臨時会で、「(株)三井物産との熱電併給事業計画については、白紙に戻すが、再生可能エネルギーの活用については、環境未来都市構想等の具現化を進める上で重要な取組であることから、改めて事業計画を策定し、低炭素社会の構築と地域の活性化を目指す」と行政報告した。

その後、12月定例会で、市街地地域熱供給システム拡大可能性調査費を議決いただき、将来の本質バイオマスボイラーの更新等を踏まえた効率的な地域熱供給

の可能性を調査した。

また、平成30年6月SDGs未来都市選定に伴い、「森林バイオマス利用拡大による脱炭素社会構築事業」を取り進めている。

⑤一つ目の平成28年度決算認定時の指摘事項について、「健全財政の運営について」「事務事業の推進の在り方について」「機能が重複する組織・団体の在り方について」「雇用問題、人材確保について」「特用林産物栽培研究所等の現状と今後の在り方について」の5点について、既に年度終盤であったため、平成29年度では課題解決に至らない事項もあった。平成30年度において、課題解決のための取組を進めている。

二つ目の「退職者の急増、多様で柔軟な人事・労務管理を実施すること」について、様々な事情により退職を余儀なくされる職員が増加していることは、大変残

念である。日頃から職員との密なコミュニケーションを図ることにより、少しでも食い止めることができたかと考え、施設職場等を訪問し、懇談するなど努力している。働きやすい職場環境づくりとワークライフバランスの充実などに配慮したい。

三つ目の「住民ニーズを十分把握し、地域の実情、現状を踏まえて政策を展開すること」について、住民懇談会、各種審議会などを通じて、可能な限り町民の皆さんのご意見を反映しながら、政策を展開したい。⑥これまでの事業の進め方については、十分に理解いただけなかった部分もあったかとは思いますが、この事業が一の橋地区のため、また、今後の本町の将来のためになるものと確信し、今後も課題を一つずつ丁寧に解決しながら進める。